

## パルシステム生産者・消費者協議会 2024年度東北・北海道ブロック会議報告

- (1) 6/18～19、福島県内各地にて、25産地53名、パルシステムグループ18名、総勢71名の参加により2024年度東北・北海道ブロック会議が開催されました。今回は、福島県内の会員産地・生協による実行委員会受け入れのもと「もっといい明日へ超えてく 震災からの復興、そしてこれから」をテーマに進められました。
- (2) 1日目は、福島県郡山市の郡山商工会議所大ホールにて本会議が行われ、村上洋巨東北・北海道副ブロック長（富良野青果センター）の進行、高橋直之東北・北海道ブロック長の挨拶により開会され、実行委員会を代表してパルシステム福島池端美雪理事長より受け入れ挨拶として「2018年のJA会津よつば公開確認会の際、農産物の全量検査を行う中で県外の方から福島の農産物を拒絶されショックを受けた、生産者の方が受けたショックや苦労は計り知れないものがある。一方で、震災は悪い面ばかりでなく、福島の農家が立ち上がり有機農業の促進や環境への取り組みに注目が集まるようになった。2日間の中で意見交換や情報共有により有意義な会にしていきましょう」と呼びかけられました。
- (3) 続いて、生消協、パルシステムグループによる事業報告が行われ、小川保代表幹事からはブロック内の新規加入産地としてジェイラップ、旬彩ファーム、ベジタブルワークスの加入が報告され、パルシステム連合会の洪澤温之専務理事、島田朝彰常務、野津秀男本部長からは能登半島地震における被災地支援などについて、パル・ミートの江川淳専務からは事業概要や生消協畜産部会に関する報告がされました。
- (4) 次に、福島県内全域の会員産地・生協より5名のパネリストが登壇され、連合会の工藤友明産直事業本部副本部長の進行により、パネルディスカッションが行われました。震災からの復興の話題の中で、あいづグリーンネットワークの舟窪満氏からは「福島は原発事故による実被害を受け、除染や放射能検査を行ってきた。震災後に風評被害という言葉が広がったが、実被害が無い中で被害を指す風評被害という言葉は福島では存在しない。」と強く発言され、ジェイラップの伊藤大輔氏からは「震災直後に農家の皆さんから、俺たちは種をまくべきか、まかないのかを問われた時が最も苦しかった。自分たちで知見を深め判断した。」とお話いただきました。最後に工藤副本部長よりまとめとして「13年が経過し、オール福島として次に進む想いを強く感じた。地域の良さを消費者に伝える想いでパルシステム福島を盛り上げていき、県外の皆様も福島と共に参加する形を築いていきたい」とお話をいただきました。
- (4) 視察産地報告として寺島裕真生産部長（旬彩ファーム）、伊藤大輔代表（ジェイラップ）より、資料に沿って産地概要が報告がされました。
- (5) 全ての報告後、グループワークの場では開催テーマを踏まえた意見交換がされ、3つのグループの共有が行われ、「資源高・担い手不足による廃業が増えている。国全体が流通から生産まで一貫して取り組むシステム構築が必要」、「東北・北海道は地域農協が多い中で農協がどのような役割を果たし、生産基盤の維持と、担い手不足の解消をどのように進めるか、パルシステムも地域の状況を理解し事業を続ける必要がある」、「農産物の獣害が増えている状況で、組合員の皆さんにも実情を伝えていきたい。飼料高騰や物流の2024年問題のなかで、再生産可能な価格帯を守る運動が必要」などの報告がされました。
- (6) 最後に、高橋東北・北海道ブロック長より本会議のまとめがされ、次年度の東北・北海道ブロック会議は山形県の庄内地域にて開催することが報告され閉会となりました。
- (7) 翌日は旬彩ファームの有機青果圃場、耕作放棄地再生の取り組みとともにジェイラップの本社施設を2つグループに分かれ視察を行い、視察後は西野文敏関西・以西副ブロック長より「震災後の取り組みについて直接聞くことができました。各地域が持つ力を共有し、新しいエネルギーに変える取り組みに私自身も力になり広げていきたい」とお話し頂き、今田君枝消費者幹事より「同じ

福島の者として旬彩ファームさんや、ジェイラップさんの取り組みは誇りになる。パルシステムや産地の皆様には震災からこれまでも福島の応援をしていただいた。これからも忘れないでほしい」とお話し頂きました。2日間のまとめとして東北・北海道ブロック選出の五十川賢治生産者幹事より「皆さまの協力によりブロック会議が開催できた。来年も山形・庄内にて笑顔で会いましょう」と呼びかけられ、最後に米沢郷牧場生産部の尾形智雄飼料係長による4月・5月の山形県高島町と南陽市での山火事に伴う取水制限による農産物影響の報告が行われました。

- (8) すべてのプログラムが終了後、ジェイラップのお米と旬彩ファームの野菜を使用したお弁当と、ジェイラップのドライフルーツシロップを使用した飲料にて昼食交流会が行われ、解散となりました。



パネルディスカッションの様子



1日目本会議での全体撮影



旬彩ファーム耕作放棄地再生後の圃場



ジェイラップ伊藤会長による施設説明の様子

以上